気づいたことからはじめよう！

身近な暮らしを「人権」という視点から振り返ってみましょう。

○太郎の両親が、太郎・花子夫婦の家を訪れたときの会話

太郎:「今日の夕ご飯は僕が作るよ。」
母親:「太郎が作るの？食事の支度は、花子さんがするんじゃないの？」
父親:「どっちが作ってもいいじゃないか。」
太郎:「そうだよ、**家事はお互いに協力してするもんだよ。**」

○夕食後の会話

祖母:「今度、生け花教室を開こうと思うの。」
父親:「今さら、そんなことしなくても。」
母親:「そうよ、お母さん、年を考えてください。」
子ども:「**年をとると、自分のしたいことをしちゃいけないの？**」

○美術展での三人の会話

Aさん:「この作品、障がいのある人の作品だって。」
Bさん:「へぇ。障がいのある人の作品とは思えないできばえだね。」
Cさん:「**それって、偏見だわ！**」

○県外で働いている息子が帰ってきたときの会話

息子:「結婚したい人がいるんだけど。」
母親:「どんな人？今度の休みに連れてきてよ。」
息子:「学生時代のサークル活動で一緒だったんだ。」
父親:「そうか。」
（息子がいなくなった後で）
父親:「どんな家柄の人なんだろうね。」
祖父:「聞き合わせをせなあかんな。」
母親:「**本人同士が好き合っていれば、家柄なんて関係ないじゃないの。**」

○インターネットの掲示板を見ていた二人の会話

Aさん:「ちょっと見て。となりのCさんのことが書き込まれているよ。」
Bさん:「こんなこと書いてもいいの？」
Aさん:「ねえ、どうせだれが書いたかわからないんだから、私たちもCさんの面白いことを書き込もうよ。」
Bさん:「**それはやめとこうよ。**」

身の回りでこのようなことがあったら、あなたならどうしますか？
おかしいと気づいたら「とめたり、やめられる人になること」が大切です。実践していきましょう。

参考・引用
岡山県発行人権啓発冊子「気づいたことからはじめよう」

市人権推進課（教育庁舎1階）
☎ 32・2122
FAX 33・3525
Mail:jinkensuishin@city.komatsushima.tokushima.jp

市民文芸　花みずき歌壇（328）　松並敦子・選

平和とはぼんやり空を見ていることと誰かが言えり空を見ている
横須町　福島　夢栄

《評》アメリカの次期大統領がトランプ氏に決まっただけで、めまぐるしく変わってゆく世界情勢。戦争、テロ、難民など無縁のような生活を送っている日本も、この平和が続くという保証はないと思わねばならないだろう。「ぼんやりと空を見ている」この平和な日常がずっと続きますようにと、改めて思いを深めさせてくれる歌である。

マイナンバーカードの我の顔写真それなりの顔に苦笑いする
田浦町　西　照子

夕方の雨降り始め人々は天刺すように傘広げだす
立江町　大西　和美

升席の切符送ると言われても相撲のみでは上京出来ず
江田町　深田　伴子

消毒の効果現れ鈴生りの柿も色づきようやく秋に
田浦町　太田カツミ

ビロードの手触りやさし紅色の鶏頭燃ゆる秋の夕陽に
赤石町　田原トシ子

見渡せば秋の夕暮れもみじ照り季変わりゆくは少し淋しき
中田町　倉橋　正則

ゆうべ降り今朝は晴天秋本番行くとこもなし庭の剪定
坂野町　橋本千代乃

虫の音は一旦途絶えしんしんと釣瓶落しの加速度が増す
横須町　山﨑　泰子

やっと一日終えて憂きこと消したきに長く尾を引くわが影法師
立江町　湯浅かや子

《今月は、市県民税４期分、後期高齢者医療保険料６期分、国民健康保険税・介護保険料７期分の納付月です。》市税の納付は、確実・安心・便利な口座振替をご利用ください。